

# HIO YOG

教区新報

2011. 2 168号

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
【編集】教区基推委広報部



震災物故者に思いをはせ合掌する参拝者

一月十七日、未曾有の大被害を出した阪神・淡路大震災から十六年となるこの日、神戸別院を会場として、「十七回忌 阪神・淡路大震災物故者

中の出勤をいただいた。法要は午後一時半より勤まり、満堂の本堂に正信偈のお勤めが厳かに響き渡る中、参拝者の焼香が続いた。

## 阪神・淡路大震災十七回忌法要 満堂で渡部さん「いのち」の研修会

総追悼法要」が勤まった。

法要の後、宗門関係学校の学生により、「あなたにとっての大切な言葉は何ですか？」のテーマのもと、震災や「いのち」について書かれた作

文が朗読された。

震災を実際には経験していない世代の学生が、震災について聞いたこと、学んだこと等から感じ取ったことを作文としての朗読を通じて、震災の記憶を風化させることなく、また「いのち」について、改めて問い直す場ともなった。

渡部陽一氏が登壇した。講題を「戦場取材をとおして家族の絆、命の尊さ、生きることの素晴らしさ」とし、独特のゆっくりとした語り口で、ジェスチャーを交えながら「戦場カメラマンになった経緯」「戦下に生きる家族・子どもたちの声」「質疑応答」の三部構成で九十分間行われた。

法要・研修会の最後は竹内俊之氏(教学伝道部門代表)の挨拶の後、参拝者全員で恩徳讃を斉唱して締めくくられた。

(二面へ続く)



自らの「愚かさ」を照らされた者のみが、真実の世界に向かって進んでいけることを教えて下さるのが親鸞聖人ではないでしょうか。◆聖人が晩年、老齢にむち打ちながら書き下された五百余首の和讃の冒頭を飾るのは「弥陀成仏のこのかたは、いまに十劫をへたまへり。法身の光輪きはもななく世の盲冥をてらすなり」です。◆この「盲冥」こそが聖人が一番先にお示しになりたかった「愚かさ」の内容ではないのでしょうか。◆「盲冥」(闇)という言葉で譬えられる「愚かさ」とは、自らの人生でしか得られない体験・知識のみを絶対化して自分だけの「ものさし」を無意識のうちに作り、それに固執してやまない愚かさです。◆この自分勝手な「ものさし」で人を傷つけ、自らも傷つけ、世を濁しているのだと教えて下さいます。◆この私の「愚かさ」を照らすおはたらきこそが阿彌陀様のお徳であり、願ひなのだと思えます。

兵庫組 安楽寺 黒田真隆

### 教区だより 2月・3月

#### 2月

- 1(火) 寺婦・仏婦 正・副委員長会議 14:00
- 2(水) 第9回布教大会 10:00
- 3(木) 仏青役員会 14:00
- 4(金) 特法協役員会 14:00
- 5(土) 第一土曜仏教講座(川邊暎美氏 フリーアナウンサー) 13:30
- 7(月) 第3連区青年布教使研修会(8日まで) 大阪教区 13:30
- 〃 別院仏婦定例法座(津守秀俊師 神戸東組)
- 10(木) 仏婦委員会 13:00
- 12(土) 仏社全国幹部養成研修会(13日まで) 本山
- 13(日) 平成22年度連研履修者研修会 10:30
- 〃 中仏集い会 10:00
- 14(月) 青僧会役員会 16:00
- 15(火) 郡萌会 19:00
- 〃 常例法座(杉山義伸師 六粟組 16日まで) 13:30
- 16(水) 別院仏社集い 10:00
- 17(木) 正信偈勉強会(兵庫聖典研鑽会) 13:30
- 19(土) 近畿ブロック門推研修協議会(20日まで) 大阪教区
- 20(日) 青僧会30周年記念旅行(3月1日まで) インド

#### 3月

- 21(月) ビハラ兵庫・社会対応部会合同研修会 13:30
- 22(火) 平成22年度布教使研修会(内藤知康師) 13:00
- 25(金) 講師団研修会(深川宣暢師) 10:30
- 〃 僧侶研修会(深川宣暢師) 13:00
- 27(日) 仏社単体会長・寺院代表者研修会 10:30
- 28(月) 布教団岡山ブロック「温泉法話会」ホテル作州武蔵 13:00
- 1(火) コーラスフェスティバル 13:30
- 3(木) 布教団第2回各種法座出講予定者事前学習会 10:30
- 4(金) 布教同志会布教大会 終日
- 5(土) 第一土曜仏教講座 13:30
- 7(月) 仏婦定例法座(森章心師 岡山北組) 10:30
- 〃 寺院活性化事業「淡路組布教大会」 淡路組萬宝寺 13:30
- 10(木) 蓮華会開法の集い 京都
- 13(日) 中仏集い会 10:00
- 15(火) 常例法座(川本法綱師 多可組 16日まで) 13:30
- 16(水) 別院仏社集い 10:00
- 20(日) 春季彼岸会(小村賢昭師 大阪教区 22日まで) 13:30

#### 僧侶研修会のご案内

『平成二十二年度 第三回僧侶研修会』が開催されますので、ご案内いたします。◆日時／二月二十五日(金) 十三時～◆会場／神戸別院三階本堂 ◆参加費／無料 ◆講師／深川宣暢師(山口教区大津東組西念寺) ※公開講座となっております。僧侶・門信徒の皆様はぜひご参加下さい。

#### 仏社単体会長・寺院代表者研修会のご案内

◆日時／二月二十七日(日) 十時半～◆会場／神戸別院 ◆参加費／二千円 ◆講師／小林顯英師(仏社連盟活動推進講師) ◆小森龍邦師(解放同盟広島県連顧問) ◆申し込み先／各組仏社理事 ※組理事が任命されていない場合は教務所までお申込み下さい。

#### コーラスフェスティバル出演団体募集!!

今年も「仏教讃歌コーラスフェスティバル」の時期が近づいて参りました。各コーラスグループの練習成果の披露・交流の場であるとともに、一般の方にも仏教讃歌に親しんでもらうことを目的として開かれる本フェスティバル。皆様のご参加をお待ちしております。◆日時／三月一日(火) 十時半～◆会場／神戸別院一階ホール ◆参加費／千円 ◆昼食不用の方は三百円 ※参加費は当日お支払下さい ◆コーラス鑑賞のみでの参加も可 ※詳細は教務所コーラス担当まで

#### 敬 弔

左記の方がご逝去されましたので謹んで敬弔の意を表します

- 藤丸 教(岡山南組源照寺坊守) 平成二十二年十二月三十一日七十五歳
- 朝倉静子(城崎組善教寺前々坊守) 平成二十三年一月十二日九十一歳
- 照尾三代子(神姫組安福寺坊守) 平成二十三年一月十四日八十五歳
- 前田徳水(朝来組光明寺前住職) 平成二十三年一月二十三日七十七歳

一月二十四日現在 【敬称略】

#### リーフレットお彼岸号 受付開始



今年三回発行のリーフレット「法」シリーズ。今年のお彼岸号は、宏林晃信師(阪神南組浄元寺)にご執筆いただきました。一部二百円(送料実費)

にて販売致しております。また、百部以上ご注文の場合に限り、寺号を無料で印刷致します。電話・FAXにてご注文下さい。【電話】〇七八・二四一・五九四九【FAX】〇七八・三四一・八五三六 ※寺号印刷ご希望の場合は一週間程度お時間を頂いております。ご希望の場合はお早めにお申し込み下さい。

# いのちを考える研修会

渡部陽一氏講演

## なぜ戦場カメラマンに

学生時代、アフリカ原住民族の取材の為、アフリカに行った時『ルワンダ内戦』に巻き込まれる。自らも銃を突きつけられ、身ぐるみを剥され、殴られながら見たのは、中学生程の子ども達が、大人を殺害し村を襲い、子どもが銃を持たされ



ジェスチャーを交えての渡部氏の講演

信じられるわけが無い。だから、考えました。どうすれば、戦争で泣いている子ども達の声を世界中の人に知ってもらえるか。考えた結果、元々大好きであったカメラ、写真でその現状を撮影すれば、一枚の写真で、言葉で説明しなくても、世界で起こっていることが、泣いている子ども達の声が届けられるのではないか。そんな仕事って何だろう。『戦場カメラマン』二十歳の時に「僕は戦場カメラマンになる」とそう自分で決断しました。

## 手を差し伸べる

カメラマンとして、十八年間まわってきて気が付いたこと。それは、戦争をしている国どうしでは戦争を止めることができな。だから、この国の間に、第三国に、日本でもイギリスでも国連でもない、戦争している国の間に一歩、手を差し伸べる。手を差し伸べるとは具体的に何をすることなのか。

か。それは「相手のことを知る」と。一つだけいい、戦争が続いたイラク。首都はバグダット、イスラム教を生活の柱にしている、これだけでいい。政治や経済の難しい話はまず置いておいて、一つだけいい。相手のことを知る。相手の顔が見えれば怖くない。世界情勢が変わっていく。「助けて下さい」と泣いている子ども達がどんどん少なくなっていく。

## 戦場から生きて帰る

僕にとって、戦場カメラマンとは、『生きて帰ること』これが絶対条件であります。

取材は命よりも大切ではありませぬ。取材先では絶対に取材を欲張りませぬ、引く勇気を持つよう。この先に、オサマ・ビン・ラディンがいて、世界単独インタビューがとれる、としても、僕のガイドが「この先に行つてはいけぬ、

渡部さん」と言えば、それを振り切つて行く事はしない。目の前にビン・ラディンがいても平気で日本に帰つてきます。戦場カメラマンとは「生きて帰ること」、危機管理を前もって段取りで組める情報、安全管理を徹底的に組み上げていくこと。これが僕の取材の仕方です。

## すべての宗教に敬意

世界中の国で、沢山の宗教を見てきました。それぞれの環境、地域、歴史、そこから生まれてきた様々の宗教、僕は心からリスベクトします。宗教がぶつかったり、否定したり、一切僕はありませぬ。僕は日本人として、もちろん渡部家という中で、仏教徒として



立ち見もあり、本堂に入れない参加者は1階の映像となった

生きてきています。その中で、世界をまわると、ムスリムやクリスチャンやコプト教やアルメニア宗教、様々なものが絡み合っている。それぞれの思いや声を、しっかりと敬意をはらい、それぞれの地域で一つひとつ取材をするように心がけています。(事務局抜粋)

# 新・旧教務所長・輪番歓迎迎会

二〇一〇年十二月二十四日、神仙閣神戸店を会場に、多田満之氏(教区会議長、森本信行氏(組長会長、大西耕雲氏(基推委員会副会長)、中尾教雄氏(基推委員会副会長)、近藤常吉氏(神戸別院責任役員)の五名を発起人・世話人として、百八十名を超える参加者が集い、新・旧教務所長・輪番歓迎迎会が開かれた。両教務所長の入場、真宗宗歌の斉唱の後、多田満之氏の開会の辞で開式、続いて大西耕雲氏より挨拶が述べられた。



新・旧所長へ花束が

もしくせません。が、しかし教区全体としては、これから陽の出を迎え、教区

に新しい光、みなぎる様な活気が求められる事でありませぬ。これを身に受け、しっかりと見据えて前進をしていただきたいと念するばかりです」と挨拶が述べられた。

## 手を差し伸べる

引き続き、滝口隆誠新教務所長より「宗門の基本的な組織は教区であり、組であり、寺院であり、ご門徒あつての宗門であります。皆様と一緒に汗をかきながら、あるべき姿になる様、一所懸命がんばつてまいりたいと思ひます。いよいよご本山では親鸞聖人七五〇回大遠忌の法要が営まれます。どうか皆様一緒に、慶びの中にご本山にお参りさせていただけますよう」と挨拶が述べられた。

## 戦場から生きて帰る

僕にとって、戦場カメラマンとは、『生きて帰ること』これが絶対条件であります。

## すべての宗教に敬意

世界中の国で、沢山の宗教を見てきました。それぞれの環境、地域、歴史、そこから生まれてきた様々の宗教、僕は心からリスベクトします。宗教がぶつかったり、否定したり、一切僕はありませぬ。僕は日本人として、もちろん渡部家という中で、仏教徒として



新しくなった別院育成施設で宿泊の参加者

得度へ向けて！  
～育成施設で  
宿泊・研修～

二〇一〇年十二月二十六日(日)～二十七日(月)、神戸別院を会場に、寺院

子弟を対象とした『平成二十二年 得度考查研修会』(主催/兵庫教区寺院子弟協議会)が開催された。

「基幹運動について」講義が行われ、まとめの研修として、教区寺院子弟協議会代表の話で研修会は終了した。また、研修会終了後、得度考查が行われ、考查を受けた研修会参加者は全員が合格した。本研修会は、仏教青年連盟会員、若手僧侶、別院職員がサポート・相談役として全日程参加し、得度考查に向けての学習だけでなく、交流の中で様々なことを学ぶ機会となった研修会であった。得度考查研修会についてのお問い合わせは、教務所・寺院子弟協議会担当まで。